

歯周病、全身にも**悪影響**、

前号では、歯周病は、歯垢(しこう)中の細菌による感染症であり、最終的には歯を支える歯や骨がダメージを受けて、歯を失ってしまう病気であることを掲載しました。さらに、歯周病が原因で、さまざまな全身疾患が引き起こされること。また、逆に糖尿病や性ホルモンの不調和、ストレス、喫煙等が、歯周病を悪化させる危険因子となっている ことなどに触れました。

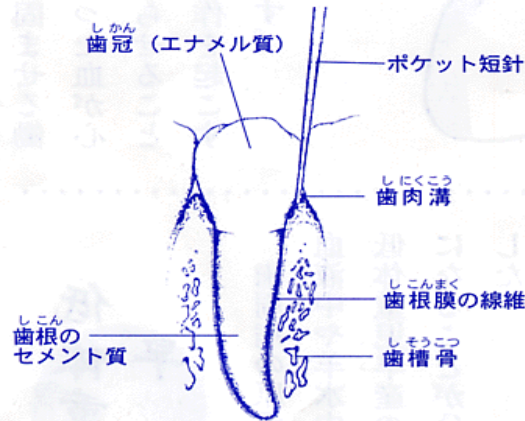
今回はもう少し詳しく、歯周病が全身に及ぼす影響について迫って見ましょう。

細菌が気管内に

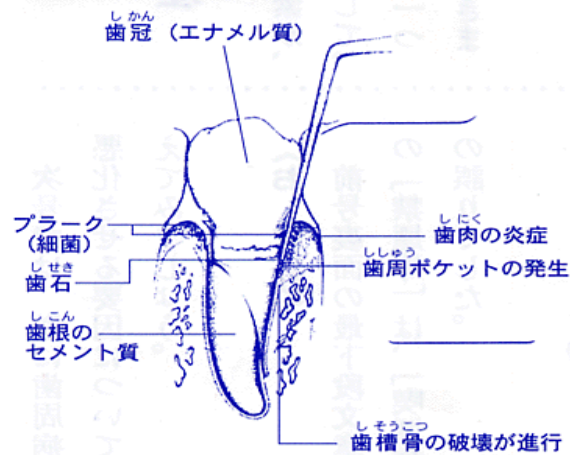
下図のように、歯周病が進行すると、歯と歯肉の間に、病的な歯肉溝(歯周ポケット)ができます。この歯肉ポケット内の細菌や細菌が、はれて出血しやすい歯肉内の血管を通過して全身に回ったり、あるいは、細菌が直接気管内に入ることにより、全身への悪影響を及ぼすのです。仮に28本すべての歯に、深さ5ミリメートルの歯周ポケットがあるとすれば、トータルの歯周ポケットの面積は約70センチ平方メートルとなり、この場合は、口の中に約8センチメートル四方の潰瘍(かいよう)を持つのとほぼ同じ状態です。

歯周病による歯周組織の変化

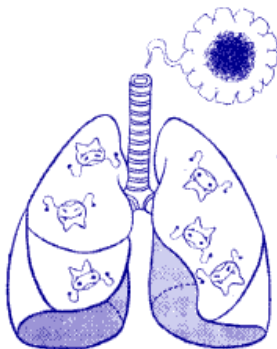
正 常



軽い歯周病



肺炎(誤飲性肺炎)



高齢者、特に要介護者の場合、物を飲み込む機能が低下するため、就寝中に口腔に生息する細菌が、唾液とともに肺に侵入する機会が増加します。

このため、肺炎(誤飲性肺炎)の発症頻度が高くなります。

心臓病

歯周病のある種の原因菌がだすプロテアーゼという酵素は血液を固まらせる働きがあり、固まった血が心臓の血管を詰まらせることにより心臓発作を起こす危険性があります。重度の歯周病患者は、そうでない人より、致命的な心臓血管系疾患になるリスクが、1.5倍から2倍くらい高いといわれています。また感染性心内膜炎においては、最も確立した病原細菌として、口腔内細菌があげられています。(心臓に人工弁を使っている人は特に注意が必要です)。



低体重児 早産

歯周病の原因菌や毒素が、血液中や羊水中に移行して、低体重児、早産の原因になることがわかってきました。

一説には、歯周炎の女性の場合、歯周炎のない女性に比べて、5倍ぐらいのリスクがあるといわれています。

このほかにも、「糖尿病」や「骨粗鬆(しょう)症」なども歯周病と関係していると考えられます。

次号では、逆に歯周病を悪化させる要因について考えてみましょう。



かかりつけの歯科医をもとう

- ★定期的に歯の健診を受けよう
- ★年に一回は歯石をとってもらおう

